

根来山げんきの森倶楽部

令和4年1月作業日誌



まだまだ寒さが厳しく、春の訪れが待ち遠しいですね。1月の活動日はオオムラサキの森をつくるプロジェクトもあり、森中に子どもたちのげんきな声が響き渡っていました。

活動日：令和4年1月16日 9:30～15:30 天気：晴れ 倶楽部員：48名

森の楽しさ 子どもたちと

オオムラサキ探検隊班…今回はオオムラサキプロジェクトの一環として、クヌギの植栽予定地の地拵えを行いました。小学生のお子さんたちを含む、一般参加者28名と、クラブ員10名、セイブジャパンプロジェクトスタッフさんやテレビの方など、賑やかな活動になりました。

午前中は笹などを鎌や剪定鋏を使って刈る作業、午後からは枯れたコナラを伐採し、皆で手分けして枝を切り落とす作業です。これは無理では…と思うほどの太い枝も、ノコギリを使って頑張って切っていく子どもたち。やりきった時の顔がキラキラとしています。



最近のカシノナガキクイムシの被害に遭うと、枯れたり、弱ったりしてしまうコナラやクヌギ。枯れずに残った木も、樹液の味が苦くなってしまい、オオムラサキは来てくれなくなるそう。新しい苗木を植え、樹木の更新をしていかなくてはなりません。ダイナミックに樹を伐り倒したり、樹液の味を慮ったり、森の作業は興味深く、そんな興味や楽しさを子どもさんたちにも感じてもらえたら嬉しいなあ、と感じました。参加の皆さま、寒い中お疲れ様でした。(森 留津)

基本守りチームワーク大切に

伐採木引き出し作業…男性7名、女性2名の9名で作業を行いました。このところ、来園者に人気のタンコロとスウェーデントーチの材にするための伐採木(株元径40cm、使用可能部分12cm程と、それより少し細めのスギ)2本を枝払いし、3mに玉切りしてロープウインチを使って林内作業車に引き上げ、第二駐車場まで運ぶ作業を行いました。

スギはすでに伐採済み。その際に周辺の整備もされていたので、本日の作業は、まずまず順調に進んだのですが、こうした林内作業は手間を惜しんだり、ちょっと油断したりするとケガや事故、機械のトラブルなどが起こることを自らに戒めながら作業を進めました。

げんきの森の活動もだんだん専門的なこと、経験やそれなりの技能が必要なことが多くなってきた感がありますが、より楽しく、充実した活動を行うためには森林ボランティアとしてそれぞれが基本をしっかり身につけ、チームワークを大切に作業を進めていくことがいかに重要かと、みんなで汗を流しながらそんなことを考えた一日でした。(水口 和子) PS. 第二駐車場に積んでいる丸太の皮むき作業をできる方はお手伝いください。(暖かい日にやりましょうね)



人のために全力で

味噌汁作り…料理班 7 名で味噌汁を作りました。私は蒟蒻を手で千切ったり、ごぼうをさがきにしりました。ごぼうのさがきは初めてでした。なので、包丁の力加減が分からず途中で包丁が深く入ってしまい、ごぼうが折れてしまいました。しかし同じく料理班の方が丁寧に教えてくださって、完璧とまではいかないまでも出来るようになりました。前から根来の味噌汁が好きだったので、私も一人の会員として一緒に他の会員さんやお客さんのために全力で作ることができて嬉しかったです。（宮芝 菜里）



達成感味わえる炭焼き 一緒にいかが？

炭出し・袋詰め・薪割り作業…本日は 10 名の参加者でした。昨年 12 月 20 日、炭釜に炭材入れ・点火・温度管理を経て本年最初の炭出しに至るまで寒い中での約 4 週間、チームメイトが力を合わせながらの献身的な活動は、【出来高 230 kg】として報われました。

作業内容は、午前 10 時前から新人の N さんを含めた 10 名で炭出し・袋詰め・計量を衣服や美顔？の汚れを厭わず黙々と行いました。午後はランダムに置かれた 1m 前後のコナラの伐採丸太の薪割りをしました。作業中に通りかかったハイカーの皆さんに注目されながら 15 時に作業を終了しました。

現在、『炭焼チーム』は男性 15 名と女性 3 名で、男性陣の殆どが 60~70 代と高齢なので、徐々にでも若手へのシフトチェンジの必要性を感じます。地味で汚れる作業ですが、達成感も感じていただける作業なので、興味のある方は是非参加して頂ければ幸いです。

ちなみに、12 月には 2 度、チーム有志により炭釜周辺で慰労会的な赤飯、豚汁昼食会や焼肉を楽しみました。（西 勝信）



新人さんも一緒にうるし谷を美しく

漆谷整備…今日初めて参加してくれた T さんと Y さんと合わせて 6 名での作業です。漆の木を植えている所の日当たりを良くするために陰を作っている大木を切り倒そうと、H さんをお願いして下見をしていただきました。

さて、本日の作業は谷中央部西側の奥へと続く谷の草刈りです。ササや竹が密生しているので大変ですが、カマやノコギリ、剪定バサミで整備

しました。一段高くなった所の立木をノコギリで切り倒しましたが、上の方でツルが絡みついて倒れませんでした。初めはやや細いロープで引っ張るとちぎれたので、太いロープを見つけてこれで引っ張ること 2、3 回と繰り返すとようやく倒れてくれました。ここで午前中の作業は終わりました。午後は 1 名加わり 7 名で、続けて切った竹と倒した木の処理にあたりました。（吉田 恒臣）

あ〜、嫌になってきた!!! オミクロンがおさまりません。でも、焦ってもしかたがありませんね。カシナガ被害が広がっているげんきの森の樹木たちは何があっても、やがてやっかいな虫たちが通り過ぎてくれるまでじっと自分たちの運命を受け入れているのです。

いろいろ不自由な事もありますし、予約のあった自然体験の申し込みもキャンセルが続いています。でも、私たちもこの現実を静かに受け入れながら、この嵐が通り過ぎるのを待つしかありません。

もうしばらくの辛抱だと信じながら。（岡田 和久）